

# あいち病害虫情報 最新情報

平成 24 年 6 月 15 日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## 梅雨入りは平年並

梅雨入りは6月8日ごろと平年並です。気象予報によれば、向こう1か月は、平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されているので、病気の発生に十分な注意が必要です。

## いもち病の季節です

6月13日を中心に、広域的に葉いもち感染好適条件が現れました。葉いもちは例年6月下旬から目につくようになりますが、今年も平年と同じような時期に発生しそうです。葉いもち対象の育苗箱施薬をしていない場合は、葉いもちの早期発見、早期防除に心がけましょう。なお、本日発表の「いもち病(葉いもち)情報第1号」では、5月29日から6月14日までの葉いもち感染好適日の判定結果を掲載しましたので参考にしてください。

## ウンカの飛来に注意

セジロウンカなどのウンカ類やコブノメイガは、梅雨前線の北上に伴い断続的に飛来し、本県に到達する可能性があります。明後日、海外から本県へウンカ類が今年初めて飛来すると予測されています。ほ場の観察をしっかりと、発生状況の把握に努めてください。なお、飛来の状況はウンカ情報として適宜提供していきますので、防除の参考にしてください。

## 斑点米カメムシ類

カスミカメムシ類は、畦畔や土手、さらに休耕田などで出穂したイネ科の雑草で繁殖します。また、ミナミアオカメムシは、コムギ収穫後のほ場では主にタデ科雑草に寄生しています。除草し繁殖を未然に防ぎましょう。

## 果樹の病害

モモせん孔細菌病の発生量が多いほ場があります。風を伴った雨で発生が急激に拡大するので、風当たりの強いほ場では防除を徹底しましょう。

ブドウ黒とう病の発生量が多いほ場があります。6月4日発表の「ブドウ黒とう病情報第1号」を参考に防除しましょう。ブドウべと病は、降雨が続くと短期間に発生が急増するので注意し、発病葉を見つけたら速やかに防除しましょう。ブドウ晩腐病は、7月中旬まで降雨が多いと発生が多くなるので、昨年発生が多かったほ場では特に注意し、罹病房は見つけ次第除去しましょう。

ナシ黒星病の発生が多くなっています。昨年多発したほ場では特に注意し、6月4日発表の「発生予察注意報第1号」を参考に防除しましょう。

カキ角斑落葉病および円星落葉病の感染時期です。昨年多発したほ場では伝染源が多くなっており、今後の風雨により感染しやすくなるので、防除を徹底しましょう。

## 果樹カメムシ類

豊橋市内の予察灯では、6月第2半旬にチャバネアオカメムシが平年より多く誘殺されました。また、果樹園への飛来が豊橋市、豊田市などで確認されており、一部のナシ園では被害も見られています。今後、夜温の上昇とともに活動がさらに活発になり、被害の拡大が予測されます。詳細については、本日発表の「平成24年度病害虫発生予察注意報第2号」を参照してください。

## ナシヒメシンクイ

フェロモントラップにおけるナシヒメシンクイ第1世代成虫の誘殺数は、平年並です。誘殺ピーク時期は地域によるばらつきがありますが、概ね平年並です。今後は途切れなく発生し、世代数を重ねるほど虫の密度が高くなります。モモ、ナシにおいて果実が食害されるので、収穫前日数に注意して防除しましょう。

## モモハモグリガ

フェロモントラップにおけるモモハモグリガ第1世代成虫の誘殺数は、やや少ない状況です。被害葉が目立つほ場では、収穫前日数に注意し、第3世代幼虫ふ化ピークを迎える6月第6半旬ごろに防除を徹底しましょう。

## チャノキイロアザミウマ

チャノキイロアザミウマの発生量は今のところ平年並ですが、この時期は軟弱な葉や新梢で本種が増殖するので、不要な枝は取り除くなど栽培管理に注意しましょう。

チャノキイロアザミウマの防除適期である第2世代成虫の発生ピークは、JPP-NETを利用し予測日を算出したところ、東海市・名古屋市6月16日、愛西市・蒲郡市6月19日、豊田市・南知多町・豊橋市6月20日、岡崎市6月22日となりました。ウンシユウミカンでは、6月上旬から7月にかけて果梗部の被害が発生しやすくなり、注意が必要です。ブドウでは、袋掛けまでに防除を徹底しましょう。

## トマト黄化葉巻病、キュウリ黄化えそ病の伝染源を減らしましょう！

施設トマト（促成・半促成栽培）の栽培が終了する時期です。タバココナジラミは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を伝搬します。次作トマトが黄化葉巻病に感染しないように、栽培終了後、施設を密閉してタバココナジラミを死滅させ、発病株は適切に処分しましょう。

施設キュウリでは、キュウリ黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV）を伝搬するミナミキイロアザミウマが発生しているほ場が見られます。次作キュウリが黄化えそ病に感染しないよう、栽培終了後、施設を密閉してミナミキイロアザミウマを死滅させ、発病株は適切に処分しましょう。

## キクの病害虫

白さび病は例年、梅雨期に感染が多くなります。発病が見られるほ場では、同一系統薬剤の連用を避けて防除しましょう。

農薬危害防止運動実施中（6月1日から8月31日まで）

今年度の重点事項は次の3つです。

- 1 農薬ラベルの十分な確認
- 2 農薬の飛散防止
- 3 農薬の盗難・紛失等の防止

問い合わせ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室  
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820